

# 環境経営活動レポート



※農村地域防災減災事業工事後の水田で、巣立ちしたタマシギ親子。タマシギはオスが抱卵・育雛する。絶滅危惧II類

版 数 : 第16版

(取組期間 : 令和6年5月1日～令和7年4月30日)

令和7年7月1日作成



## 青木建設株式会社

住 所 : 熊本県球磨郡あさぎり町免田東1772番地

T E L : (0966)45-3108

F A X : (0966)45-0979

E-mail : aokiaoki@themis.ocn.ne.jp

# 目 次

1. 事業概要	1
2. 環境経営方針	2
3. 実施体制組織図	
3-1. 組織図	3
3-2. 各部署の責任と権限	3
4. 環境経営目標	
4-1. 第2次中期環境経営目標	4
4-2. 各部署の環境経営活動計画と結果	5
5. 環境経営活動の実績	
5-1. 環境経営活動の実績	6
5-2. 環境経営活動取組結果の分析及び今後の取り組み	6
6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	
6-1. 環境関連法規の遵守状況と苦情の有無	8
6-2. 環境関連法令への違反・訴訟の有無	8
7. 代表者の全体評価と見直し	8
8. 環境コミュニケーション	9

## 1. 事業概要

### 1-1 事業者名及び代表者名

青木建設株式会社 代表取締役 満石 良彦

### 1-2 認証登録範囲の所在地

本社

〒868-0408 熊本県球磨郡あさぎり町免田東1772番地  
機材センター

〒868-0442 熊本県球磨郡あさぎり町深田北585番地  
湯前営業所

〒868-0621 熊本県球磨郡湯前町2587番地3

### 1-3 環境管理責任者名及び連絡先

環境管理責任者 桑原 照男

連絡先 TEL 0966-45-3108 FAX 0966-45-0979

### 1-4 事業内容

建設業 土木工事業・建築工事業・とび・土工事業・  
管工事業・舗装工事業・水道施設工事業・  
大工工事業・屋根工事業・鉄筋工事業・  
防水工事業・内装仕上工事業・造園工事業  
塗装工事業・解体工事業

中間処理施設 粉砕・分級  
・アスファルトコンクリート塊  
・セメントコンクリート塊

### 1-5 事業規模

資本金 6,000万円  
完成工事高 2,030,000千円 (令和6年度)  
従業員数 46名 (作業員含む)  
事業所延べ床面積 550m<sup>2</sup>

### 1-6 事業年度

期首：5月 期末：翌年4月

### 1-7 認証登録の範囲

全社、全活動を登録の範囲とする。

## 2. 環境経営方針

### 経営理念

安全最優先とハイレベルの技術で、環境に配慮して顧客信頼に応える

### 環境経営方針

私たちは、「経営理念」実現のために、環境経営システムを構築・運用し、環境に配慮する取組を継続的に改善維持する。

- 1、温室効果ガスの削減を計り、地球温暖化防止に取り組む。
- 2、水資源の有効活用のため、節水と水質汚濁防止に取り組む。
- 3、廃棄物の削減、リサイクルの促進に取り組む。
- 4、環境関連法令を定期的に確認し、遵守する。
- 5、環境に配慮された製品購入、環境に配慮した工法に取り組む。
- 6、化学物質使用量の適正管理に取り組む。
- 7、環境経営方針、実施体制組織図および主な環境行動計画は、教育訓練及び現場掲示等で全従業員に周知徹底する。

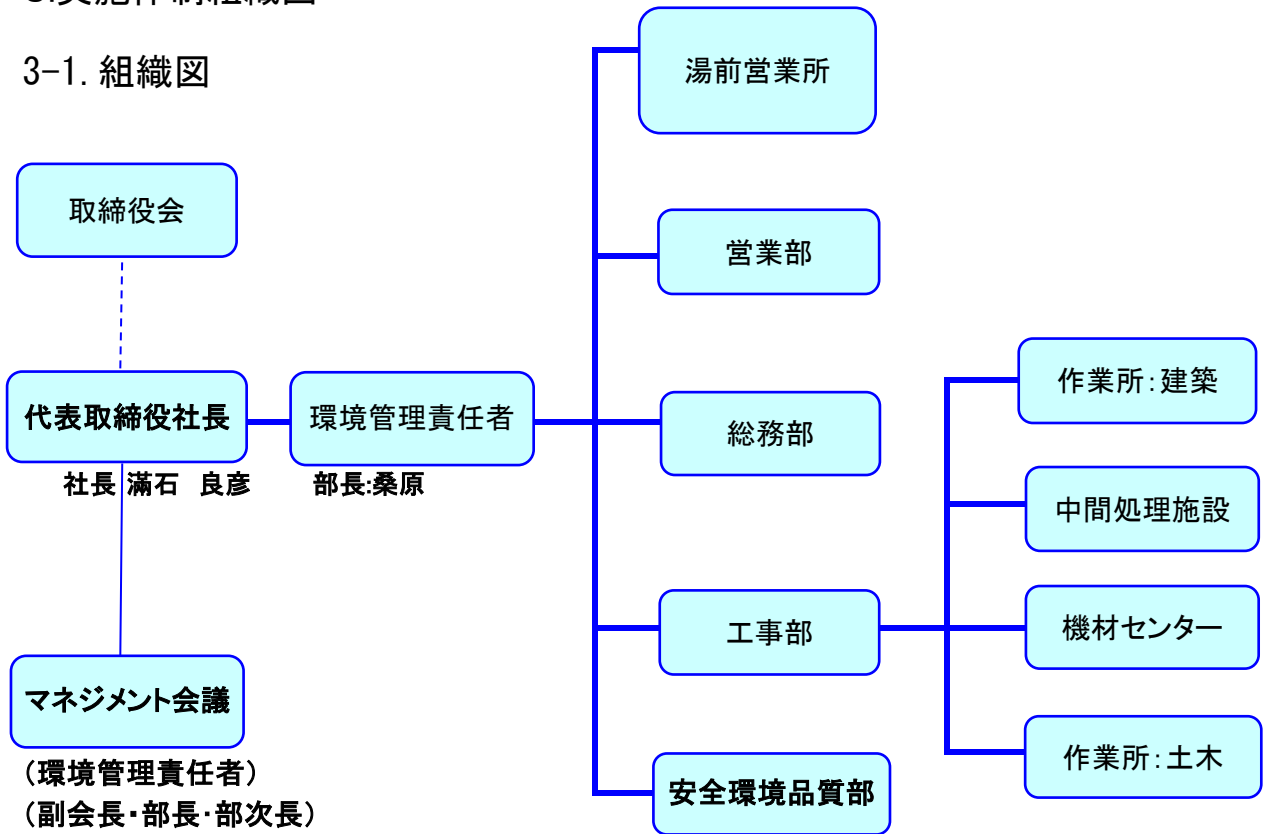
2021年8月1日

青木建設株式会社

代表取締役 満石 良彦

### 3.実施体制組織図

#### 3-1. 組織図



#### 3-2.各部署の責任と権限

##### 責任と権限

経営者(社長)	環境への取り組みを適切に実行するための資源を用意する。環境経営方針を定め、表明する。環境管理責任者を指名する。システムを見直し、改善を指示する。
環境管理責任者	システムの総責任者としてシステムを構築し、実行し、継続的に改善し、維持する。システムの実績を社長に報告する。システムについて、外部関係者と連絡調整を行う。環境経営目標と環境経営活動計画を策定する。
安全環境品質部	環境経営目標と環境経営活動計画を展開。内部監査を実施。環境レポートを作成する。教育訓練(緊急事態発生時を含む)を計画し、実施する。環境関連法令をチェックする。
営業部	環境経営目標と環境経営活動計画を展開する。部署の車両の燃料使用量を記録する。
工事部	環境経営目標と環境経営活動計画を展開。部署の車両・重機類の燃料使用量を記録。マニフェスト伝票を作成する。中間処理施設関係の光熱費、砕石処理量を記録する。
総務部	環境経営目標と環境経営活動計画を展開。部署の車両の燃料使用量を記録する。本社、営業所の光熱費、水道使用量を記録する。コピー用紙の使用量を記録する。全部署の燃料の使用量を集計する。全部署の光熱費、水道使用量を集計する。廃棄物排出量・利用量を集計する。
湯前営業所	環境経営目標と環境経営活動計画を展開。部署の車両の燃料使用量を記録する。
マネジメント会議	マネジメント会議において、システムが引き続き適切で、妥当で、有効であることを確実にするために、マネジメントレビューを実施する。
取締役会	安全・環境・品質マネジメントシステムの経営的な有効性を評価する。

## 4. 環境経営目標

### 4-1. 中期環境経営目標（令和6年5月から令和9年4月）

本社（湯前営業所含む）		基準年度	目 標					
項 目	単位	R5年度	R6年度 前期	R6年度 全期	R7年度 前期	R7年度 全期	R8年度 前期	R8年度 全期
水資源投入量	m <sup>3</sup>	756	***	752	***	748	746	745
電気使用量：購入電力	kWh	13,939	***	13,869	***	13,800	13,765	13,730
燃料使用量：ガソリン	L	16,833	***	16,749	***	16,665	16,623	16,581
温室効果ガス排出量	Kg-co <sub>2</sub>	45,674	***	45,446	***	45,217	45,103	44,989
環境への取組状況【別表 環境への取組の自己 チェックリスト総合結果値】	%	77.7	***	78.1	***	78.5	78.7	78.9

※「九州電力の二酸化炭素排出係数（0.41700kg-CO<sub>2</sub>/kWh）を使用

現場（機材センター ・中間処理施設含む）		基準年度	目 標					
項 目	単位	R5年度	R6年度 前期	R6年度 全期	R7年度 前期	R7年度 全期	R8年度 前期	R8年度 全期
電気使用量：購入電力	kWh	5,359	***	5,332	***	5,305	5,292	5,279
燃料使用量：ガソリン	L	37,152	***	36,966	***	36,780	36,687	36,595
燃料使用量：軽油	L	130,015	***	129,365	***	128,715	128,390	128,065
温室効果ガス排出量	Kg-co <sub>2</sub>	421,632	***	419,524	***	417,416	416,362	415,308

#### 4-2.各部署の環境経営活動計画と結果

環境経営方針及び環境経営目標を達成するために下記の環境活動を設定し、取り組んでいます。

令和6年度実績

評価基準 ○：達成できた、△：ほぼ達成できた、×：達成できていない

項目	具体的な活動	推進担当者					
		総務部	営業部長	工事部長	湯前営業所長	各作業所長	安環品部長
省エネ	社用車をハイブリッド車及び低燃費車への乗り換え	○	○	○	○	○	○
	昼休みの消灯	○	○	○	○	○	○
	冷暖房設定温度の厳守(冷房温度28℃、暖房温度20℃)	○	○	○	○	---	○
	LED照明器具への取り換え	○	---	---	○	---	---
	省エネステッカーによる目で見える周知	○	---	---	○	---	---
	日よけ、ブラインドによる室温上昇防止	○	---	---	○	---	---
省資源	アイドリングストップの推進(1分以上)	○	○	○	○	○	○
	経済運転の推進(急発進、急停止の禁止・エコモード運転)	○	○	○	○	○	○
	法定速度の厳守	○	○	○	○	○	○
	現場への車両の相乗りの推進	---	---	---	---	○	○
	車両点検の実施(適正空気圧、異常が無いこと、燃費の把握)	○	○	○	○	○	○
	省資源化ステッカーによる目で見える周知	○	○	○	○	○	○
一般廃棄物	社内情報のペーパーレス化(社内メール、掲示板の活用)	△	△	△	△	△	△
	裏紙使用の推進	○	○	○	○	○	○
	ゴミの分別の徹底(古資料、梱包ダンボール)	○	---	---	○	---	---
水の使用	水使用の把握	○	---	---	---	---	---
	節水の推進	○	○	○	○	---	○
	節水ステッカーによる目で見える周知	○	○	○	○	---	○
	水系への環境負荷物質の漏洩防止(濁水、オイル、塩カリ等)	---	---	---	---	○	---
工事関係	リサイクル資材の使用推進(建設リサイクル法)	---	---	○	---	○	---
	工事による廃材、汚泥の適正処理	---	---	○	---	○	---
	騒音防止の推進(騒音規制法)	---	---	○	---	○	---
	振動防止の推進(振動規制法)	---	---	○	---	○	---
	工事中の安全確保	---	---	○	---	○	○
産業廃棄物	産業廃棄物の分別	---	---	---	---	○	---
	リサイクル、再生資源化の推進	○	○	○	○	○	○
	産業廃棄物置場の適正な管理	---	---	○	---	○	---
地域の 環境貢献	地域農業団体への奉仕活動(花植え・除草)	○	---	○	---	○	○
	沿道の空き缶拾い(ロードクリーンボランティア含む)	○	○	○	○	○	○

---該当なし

## 5. 環境経営活動の実績

### 5-1 環境経営活動の実績 (令和6年度)

本社（湯前営業所含む）		R6年度 (R5の-0.5%)	令和6年度実績	評価(達成度)	備考
項目	単位				
水資源投入量	m <sup>3</sup>	752	756	99.5%	
電気使用量：購入電力	kWh	13,869	14,688	94.4%	エアコンの使用量の増加
燃料使用量：ガソリン	L	16,749	15,250	109.8%	エコカーへの乗り換え
温室効果ガス排出量	Kg-co <sub>2</sub>	45,446	41,505	109.5%	
環境への取組状況【別表 環境への取組の自己チェックリスト総合結果値】	%	78.1	83.0	106.3%	

現場（機材センター・中間処理施設含む）		R6年度 (R5の-0.5%)	令和6年度実績	評価(達成度)	備考
項目	単位				
電気使用量：購入電力	kWh	5,359	5,324	100.7%	
燃料使用量：ガソリン	L	37,152	39,267	94.6%	工事量増加に起因
燃料使用量：軽油	L	130,015	89,888	144.6%	重機作業の減少
温室効果ガス排出量	Kg-co <sub>2</sub>	421,632	331,741	127.1%	

### 5-2. 環境活動取組結果の分析及び今後の取り組み

#### （本社関係）

- ・水資源投入量について

水資源投入量は目標752m<sup>3</sup>から756m<sup>3</sup>に微増している。次期も引き続き節水を心がける。

- ・電気使用量：購入電力について

目標値より819KWh増加している。増加の要因は、熱中症対策としてエアコン使用時間の増加と冬場の暖房を温風ヒータからエアコンへの変更である。適正管理に努める。

- ・燃料使用量について

ガソリン使用量は、目標値より9%減少している。これは、ハイブリッド車への乗り換えによって燃料消費量を減少させている。

- ・ 温室効果ガス排出量について

目標は達成できている。燃費の悪いガソリンエンジン車、大排気量のガソリンエンジン車をハイブリッド車、燃費の良い軽自動車に替えて、燃料の使用量が大きく減ったこと。

引き続き、アイドリングストップ等に心がける。

- ・ 本社周辺の通学路の環境美化活動状況について

始業時に、本社周辺の掃き掃除と空き缶等のくず拾いを行っている。環境美化活動が定着してきている。引き続き行っていく。

### (現場関係)

- ・ 燃料使用量について

燃料使用量は、ガソリンが6%の増加、軽油が30%の減少している。これは、大型重機類やダンプトラックの使用現場が今期は減少したことによる。現場では、工事内容により大きく燃料消費量が左右されるが、アイドリングストップ・低燃費の重機リース・省エネ運動により、燃料消費量を減らしていく。

- ・ 現場周辺の地域貢献活動について

毎月実施している安全訓練時に、地域への貢献活動として、道路側溝の清掃、霜解けによる落石の除去、空き缶拾い、除草等を行っている。現場周辺の環境対策・地域貢献の一環として現場ごとに活動している。

- ・ 建設産業廃棄物の削減・再資源化率に関する目標について

建設リサイクル法による特定建設資材（廃セメントコンクリート、廃アスファルトコンクリート、廃建設木材）は再資源化率は100%となった。（自社にて再資源化）

産業廃棄物全体では、建築工事現場で分別困難なガラス陶磁器くずなどの「混合廃棄物」の排出がなく、再資源化率は100%となった。

## 6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

### 6-1. 環境関連法規の遵守状況と苦情の有無

環境法規制の遵守活動を行い、その遵守状況を7月1日に「環境等規制等遵守チェックリスト」に基づき行った結果、遵守しており、環境関連法規制への違反、苦情の発生も無い。次に、主な環境関連法規の遵守状況を記述する。

環境法規制等の名称	規制内容・手続き・遵守事項	遵守状況
廃棄物処理法	マニフェストの交付及び回収・照合等	適
労働安全衛生法	石綿等の除去作業	適
ラージリサイクル法	発生抑制・再利用・再資源化努力	適
再生資源利用省令	再生資源利用計画の作成	適
指定副産物利用促進省令	再生資源利用促進計画の作成	適
建設リサイクル法	発注者への計画等説明書と完了報告書・下請負者への告知書	適
振動規制法	舗装版破砕機を使用する機械（作業敷地境界で75db以下）	適
騒音規制法	削岩機、空気圧縮機等を使用する作業	適
廃PCB処理法	PCB廃棄物	該当無し
建設廃棄物処理マニュアル	廃プラ、建設木くず、金属くず、コンクリート破片等	適
建設副産物適正処理推進要綱	建設発生土、建設副産物 「再生資源利用促進計画」の作成等	適
建設汚泥の再生利用ガイドライン	建設汚泥（舗装切断時排水汚泥処理）	適
大気汚染防止法	一般粉じん発生施設（破砕機定格出力75kw以上）	適
オフロード法	ブルドーザ、クローラクレーン（適合証明）	適
河川法	一日に50m <sup>3</sup> 以上の汚水を河川に排水	該当無し
建築基準法	ホルムアルデヒド、石綿含有建材の使用禁止	適
六価クロム溶出試験実施要領	地盤改良におけるセメント系固化材使用時	適
消防法	少量危険物の貯蔵・取扱の基準に従い実施	適
電波法	特定小電力無線局の技術適合証明および免許等	該当無し
環境影響評価法	環境影響評価書に基づく計画書に従い実施	適
火薬類取締法	消費の技術基準に従い実施	適
フロン排出抑制法	エアコンの簡易点検：3か月に1回以上	適

### 6-2. 環境関連法令への違反・訴訟の有無

環境関連法規等への違反、訴訟について、違反、訴訟等はない。  
関連機関からの指導等はない。

## 7. 代表者の全体評価と見直し

エコアクション21の導入宣言してから16年が経過し、社員一人ひとりのエコへの取り組みが浸透してきています。

導入宣言を機に、営業の効率化を図るとともに、情報の共有化、ペーパーレス化等のシステム構築でCO2削減に取り組んでいます。これらを踏まえて、環境への取り組みが、品質マネジメントシステム、労働安全衛生マネジメントシステムと一体化した、効率的な仕組みとなってきています。環境方針、環境目標、環境マネジメントシステムの見直しについては、情報通信技術を活用したICT施工機械による省力化を推進し、安全・環境・品質を総括した効果的な仕組みとなるように改善します。

これからも、環境保全を基本理念として、経営健全化を図り、ボランティア活動等を通じて地域社会に貢献していきます。

令和7年7月1日 青木建設(株) 代表取締役 満石 良彦

## 8. 環境コミュニケーション

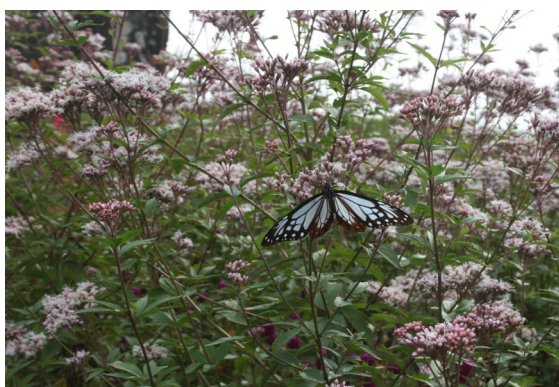
環境コミュニケーションの活動として、現場周辺の除草や空き缶拾いを実施するとともに、冬場には生活道路の除雪や梅雨時期には落石崩土除去を実施している。

また、地域の農地・農業用水等の資源や環境の保全と質的向上を図る活動を実施している農業団体に対して、活動が円滑に実施できるように技術的支援業務や労務建設資材・建設機械の調達等の支援を行っている。癒しの場として、農業用水源地花壇にフジバカマを植えて、旅する蝶アサギマダラの休息地を提供している。

ボランティア活動（農業用水源地植栽）



植栽のフジバカマに飛来したアサギマダラ蝶



熊本県ロードクリーンボランティア



教育訓練状況



緊急時の訓練（軽油流出事故訓練）

